

北海道静内農業高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和3年度に重点化した取組の実現状況・課題			
「5つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育 で人材を育てる 学校	①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。	(1) アグリマイスター顕彰制度を推奨し、農業教育の質の向上を図る。 (2) 教科内プロジェクト学習を取り入れ、プロジェクト学習法の確実な定着とプレゼンテーション能力の向上を図る。	(1) 合計12名を推奨できた。 (2) 1科目1研究を実施しポスターセッションによる発表を実施できた。	(1) ミニマムエッセンスとしての学習項目を定め農業教育の質の向上を図る必要がある。 (2) 次年度も継続し発表活動の充実を図必要がある。	4
	②「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	(1) ASIAGAP認証を受けた生産管理工程の学習を継続し、グローバルな視点から農業生産を分析する能力を高める。 (2) 統計結果などを積極的に活用し、世界や日本の農業実態をより深く理解する学習機会の増加を図る。	(1) 関係機関の指導を受け認証作目を拡大できた。 (2) 農業経済を中心に統計結果を活用した授業に取り組むことができた。	(1) 認証を継続するとともに農業生産学習への活用を検討する必要がある。 (2) 各科目での統計情報の活用を研究する必要がある。	4
II 地域社会・産業に寄与する学校	③「地域農業の生産を支える」教育を行います。	(1) マイスターハイスクール事業をとおして高度な専門性や実践力を養う学習を推進する。 (2) 地域で栽培・飼育されている題材を取り入れた学校農場経営を実践し、地域の担い手や地域農業を支える人材を育てる。	(1) 関係諸団体、企業と連携し1年目の事業を実践できた。 (2) 地域の実態の即した栽培の学習に取り組むことができた。	(1) 2年目の事業目標達成に向けて計画立案を進める必要がある。 (2) 栽培作目と農場の活用について更に研究する必要がある。	4
	④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。	(1) マイスターハイスクール事業をとおして高度な専門性や実践力を養う学習を推進する。 (2) 栽培・飼育・加工・販売・活用の学習をとおして6次産業化に対応した人材を育てる。	(1) 関係諸団体、企業と連携し1年目の事業を実践できた。 (2) 農場内での連携によりフードシステムの学習を推進できた。	(1) 2年目の事業目標達成に向けて計画立案を進める必要がある。 (2) 各学科の教育内容を活かした学習内容の構造化を図る必要がある。	4
III 地球環境を守り創造する学校	⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。	(1) 本校に隣接する二十間道路桜並木をとおして環境保全について考え、地球環境を守る人材を育てる。 (2) 資源循環バイオ実習室の有効活用をとおして環境負荷の少ない畜農業を推進する。	(1) 桜並木に関する講演会を行い歴史を把握させることができた。 (2) 年間をとおして実習室を稼働させることができた。	(1) 次年度も講演会を実施し、地域の実態を理解させる必要がある。 (2) 環境負荷を軽減する取り組みを継続する必要がある。	5
	⑥「食農」教育を推進します。	『食農』の重要性・持続性について学ぶとともに、地域関係諸団体との交流の機会を設け、『食農』への興味・関心を高める。	作物、馬利用学、畜産の科目で児童との交流活動を実施し食の大切さや農業の面白さを学習させることができた。	生徒が主体的に取り組めるよう指導方法を研究する必要がある。	5
IV 地域交流の拠点となる学校	⑦「地域資源を活用する」教育を行います。	基幹産業、観光資源を活用した学習を展開し、地域の活性化に寄与する人材を育成を図る。	地域の主力農作物や観光資源を活用したプロジェクト学習を実施することができた。	プロジェクト学習による地域課題の解決に取り組む必要がある。	5
	⑧「地域交流の拠点となる」教育を行います。	家畜や栽培作物を活用した交流学习に積極的に取り組み、関係諸団体との連携を深める。	家畜や作物を活用した交流学习を実施し、連携を深めることができた。	今後も活動を継続できるよう連携を密にする必要がある。	5
V 地域防災を推進する学校	⑨機関・団体と連携した」教育を行います。	町内外の関係機関と継続的に連携し、より高度で実践的な学習活動を推進する。	既存の事業に加え、マイスターハイスクール事業により連携と学習を深めることができた。	プロジェクト学習活動やデュアル派遣実習などの充実につなげていく必要がある。	5
	⑩「地域防災を推進する」教育を行います	胆振東部地震を教訓に防災意識を常に持ち、自助、共助、公助連携し、『命を守る』意識を高める。	防災学習として非常災害時の心得などについて全校生徒で学ぶことができた。	今後も継続して防災学習に取り組む必要がある。	4